

【シンポジウム】

## 阪神・淡路大震災と博物館の被害

### The Symposium on the Hanshin-Awaji Earthquake and the Damages of Museums —Keenote Speech—

森田恒之\*

Tsuneyuki MORITA

今日は阪神大震災と博物館の被害ということで、様々な形で被害にあわれた施設の方々に話題を提供していただいて、これからの博物館はどうしたらよいかということ、短い時間ですが、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

私も実は現在住んでいるところが神戸の付近、市街地の真中です。幸いにして私のところは被害を全く逃れたものですから、こういうのは幸にしてと言っているんですかわかりませんが、1月17日の夜が開けたころから、神戸の市街、あるいは西宮の近くまで、自分の足でもって、あちこちを見てまわることができました。本当に亡くなった方のことを考えますと申し訳ない気持ちですが、私自身は被災しなかったために、やや冷静にいろいろな状況を見られたということもあるのかもしれませんが、やはりその中でもって、様々なことが重なってできているということを感じさせられました。

そして、それぞれの件については、これからの中でお話していただくということにさせていただきたいと思いますが、最初のイントロダクションとして、新聞、週刊誌その他で、たくさん紹介されたことですけれども、今度の震災の被害というものがどんなものであったかということ、ごく外観的なところだけを、最初にちょっと見ていただくことから入っていかうかと思っています。

先程申しましたとおり、私は最初の日か二日の間に様々な場所の写真を撮りました。いくつか、あまり上手ではありませんがご覧にいられたと思います。

順は少し不同で見ていただくことになるとは思いますが、これが神戸の市役所の建物を下から見上げたところ、こうして見ていただくとわかると思いますが、ここが4階で、4階と6階の間の5階だったと思いますが、完全につぶれているだけでなく、これだけ差があります。ずれたということです。ずれたというか、下の方が移動して、上がドンと押し込まれたものですから、ちょうど柱が折れて、これだけになってしまったということです。この辺がかなり被害のひどさを示すのかもしれませんが、どのくらいひどかったかという例を、あと一つ二つご紹介していきたいと思っています。

これは大変話題になりました、神戸市内の長田区という西のほうのところの被害状況ですが、例えばこれはビルが完全に曲がっている。これは写真が歪んでいるわけではありません。自動車と通りの民家を見ていただくとわかるとおり、ビルが完全に曲がってしまった。あるいは、これは上のほうが焼けているのですが、同時にこの地面に接したところがほとんど全部くずれまして、鉄筋がS字形に表に飛び出してきています。これは、被害のひどさを物語るとも思います。これも同じような形で、ちょっと暗いんですが、やはりビルの一階のところ、えぐられるような形で離れています。しかもこの柱が、この建物のところが、50~60センチ離れてしまっているのです。建物がポンと持ち上げられて横にずれ、ここだけは下に下がっていたものですから、これだけずれてしまったということです。これが直後の一般の民家の被害です。こういう形のものが、続々と起

\*もりた つねゆき

国立民族学博物館教授

こってきたということです。

ここで博物館や文化財に関係するような部分の被害を取り上げ、ちょっとご紹介をしていこうと思います。

余計な写真がいっぱい入れてありますが、一番上も完全につぶれてしまったビルです。二番、真中にありますが、これは神戸のちょうど中心部にある栄光教会というジズイット派の教会で、たいへんいい煉瓦造りの建物でしたが、ご覧のとおりかなりあちこちが崩れました。この建物は現在完全に取り壊されて、今は仮設の教会になっています。

これが直後の道路の状態ですが、歩道が全部隆起しています。こんな形の状態が町中のいたるところに起こってきているということです。これはご存じの方いらっしゃるとは思いますけれど、神戸の町中に、港川神社という神社があります。その脇のところに神戸市が野外彫刻をずっと設置しております。浜離宮でやっていた彫刻コンクールがあるんですが、その中から市が買い上げた作品を、道端にずっと並べている一角があるんです。これはその中の一つで、動物の頭のようなたいへん大きい石彫だったのですが、ここの台座の上から地面に転がり落ちこちている。ただこの彫刻は、被災後の三日まではこの状態であったのですが、四日目はわかりません。五日目あたりに、どこかへ運び去られまして、今どこに行っているのか、私も追跡ができていません。ちょっとこれも写真が暗くてわからないかもしれませんが、港川神社の被災状況です。見事に塀が全部壊れている。塀が、土塀が完全に倒れてしまっている。土塀というのは比較的もろいもんでして、そうだとすることがよくわかったんですが、屋根の瓦が重いということだけでなく、塀の下はほとんど作ってなくて、いわゆる土壁が下の垂木の上にポンとっただけです。ちょっと揺れますと、簡単に倒れてしまうという、たいへんもろいものだとすることがよくわかりました。

それから、先程ちょっとご覧になったこの栄光教会ですけれども、今度の震災で、おそらく阪神地域では、明治以来あった煉瓦建ての建物が、ほとんど全部倒壊してしまったと思います。これは煉瓦建ての構造というものがもっていた欠陥といえますか、弱さです。煉瓦を積み上げているんですが、この煉

瓦同士を繋ぐ構造というものを、ほとんどもっていない。もちろん中にいわゆる骨に当たるような、鉄筋のようなものはもちろんありませんから、ただ煉瓦を積み上げて繋いでいるだけであったために、ちょっと揺れてしまうと本当にきれいに崩れてしまいます。

関東大震災で、いわゆる鹿鳴館をはじめとする、銀座、丸ノ内界隈の赤煉瓦街もほとんど崩れるということ、私達は文字や聞き取りでは知っていたわけですが、これを見てみると、なぜ壊れたかということが大変によく理解ができました。

もう一つだけ、ほんのいくつかだけですが、これが兵庫の県立近代美術館の建物を正面から見たところの一部分です。ちょっとここを見ていただくとわかると思いますが、この建物は柱が何本かあった上に、箱が乗っていたような構造をしていた。その柱の部分、この柱の上にこの建物が乗っているんです。このところを見ていただくとよくわかるんですが、これだけずれてしまったのです。つまり、この上に乗っている四角い建物が、こっち側にずれたのです。本来は、この真中にのっけなければならぬものが、これだけずれてしまったということです。この建物の中にあつたものは、壁にあつたものはほとんど全部落体しています。彫刻もずっと置いてあつたわけですが、かなりのものが落体したり、台座から落ちたということも起こったようです。ちょうどずれたところの一部は、こんな形になります。

どのくらいのひどい被害であつたのか。しかもそれが、随所に起こつたんだよというようなことを、とりあえず、ご紹介をしておきました。続いて、少しそれぞれの博物館の具体的な被害、あるいは、館種毎の差異というような、さまざまなケースについて、皆様からご報告をいただいた上で、議論に入っていこうかと思ひます。

最初は人文系、歴史系の博物館の状況として神戸市立博物館、次いでUCC コーヒー博物館、水族館の状況について、神戸市立須磨海浜水族園、最後に尼崎市立歴史博物館準備室の順に報告をしていただくと思ひます。パネラーの皆様、よろしくお願ひいたします。